

## シラウオの周年展示は可能か？

田久和 剛史（島根県立宍道湖自然館ゴビウス）

シラウオ *Salangichthys microdon* は、サケ目シラウオ科に分類される全長 10 センチ程度の魚類である。河川の河口域や汽水湖などに生息し、「宍道湖七珍」に挙げられるなど宍道湖を代表する魚の一つでもある。しかし、シラウオの寿命はおよそ 1 年と短く、収集できるのは冬から春先にかけてのごく短い期間であり、展示期間に限られる。年間を通じて来館者の方に見ていただくためには、別の方法が必要となる。

このため、島根県立宍道湖自然館では、2001 年の開館以来、人工授精を行い、飼育が困難とされる本種の育成に取り組んできた。2006 年には人工繁殖による最長飼育日数の記録を更新し、以降、1 年を通じた飼育やメスの抱卵個体の確認など技術開発を進めてきたが、安定して展示できる個体数の確保までには至っていなかった。

そこで、2016 年からはホシザキグリーン財団の事業として、これまでの飼育技術をベースとしながら、飼育環境や餌の組み合わせを見直し、生残数や成長の向上を目的として、新たな飼育方法を試みた。

その結果、ふ化後 150 日目以降の成長が改善されるとともに、生残数も向上した。

これまでの取り組みや今年度の結果をふまえ、目標とする当館での周年展示の可能性について発表する。



人工授精によって生まれたシラウオ